

福祉社会学

科目コード

CC2101



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	赤塚 俊治

科目の概要

■科目の内容

複雑化した社会構造のなかで暮らす国民の生活福祉問題を分析すると、戦後のわが国における社会構造は大きく変化しており、それにもなつて数多くの社会生活のひずみ現象（社会的犯罪、麻薬、アルコール疾患、子供の自殺・老人の自殺、家庭崩壊、援助交際など）が産出されています。2011.3.11東日本大震災は、被災地はもとより、わが国の社会をあらためて考えさせる大きな要因にもなりました。今後、わが国は超高齢・少子化、高度情報化、国際化が進捗して、家族関係や地域社会における生活環境が一層複雑な様相を呈するものと予想されるだけに、今後の社会保障政策や社会福祉政策にも大きく影響を与えることは確かです。それゆえに現代社会が生み出す社会現象をより包括的にとらえながら、「発展社会から成熟社会への変換」を目指した福祉社会を構築していくことが重要かと思われまふ。

本講義では、こうした国民の生活周期に生起する新たな諸問題に対応すべき社会福祉の援助過程に関わる社会的行為や社会政策などを社会学的な視点から現状分析することによって、今日の生活問題を規定している諸要因やそれらの相互連関を体系的に究明しながら、今後の社会福祉の役割と機能について検証する内容にしたいと考えています。

■到達目標

個人の暮らしと社会構造の変動を社会福祉との関連で捉え、その意義について理解して説明できる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム（第3版）』
中央法規出版、2014年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2014年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「ICT活用力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

萩野浩基編『小山剛の拓いた社会福祉』中央法規出版、2016年

齋藤吉雄著『応用社会学原論』学文社、2015年

武川正吾著『福祉社会』有斐閣、2001年

佐藤慶幸著『現代社会学講義』有斐閣、1999年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

受講生は、現代社会における社会問題はどのような要因によって生起するのかを自分自身の問題として捉え、さらには、人々の暮らしに関する実態を常に関心を持ちながら社会との関係性について学んでもらいたいと思います。また、「2025年問題」に伴い後期高齢者の増加が予想される中で、介護問題や社会保障制度の問題を理解するだけでなく、重要なのは人々の日常生活を実証的に学ぶことです。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	福祉社会学とは何か	連字符社会学と社会変動（生活問題・社会福祉）
2	現代社会と社会病理現象	精神的貧困、ストレス性疾患、孤独死（無縁社会）
3	社会学者と理論	「社会」の存在に対する捉え方
4	社会システムとは何か	AGIL図式（T. パーソンズ）など
5	人と社会の関係①	社会集団と組織（集団の概念など）
6	人と社会の関係②	社会的行為、自殺、社会的役割および相互行為
7	生活の理解①	家族とは何か（家族機能の変容と個人主義の多様化）
8	生活の理解②	現代家族の構造と機能と家族意識の変化
9	障害者総合支援法と社会	家事の外部化、ケアの外部化
10	地域社会	地域社会の変容と諸問題
11	現代社会の理解	社会問題の理解と「豊かさ」
12	まとめ	福祉社会学から捉えた社会福祉の展望
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料にもとづいて講義を進めます。教科書も使用します。

■スクーリング 評価基準

授業への出席状況20%+スクーリング試験80%で評価する。スクーリング試験は教科書、配付資料を持込可とする。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書は、全ページを読んでください。用語や言葉の意味を理解することよりも、一度、教科書を読んでおくとスクーリング時において授業に入りやすくなります。また、普段から社会の動向に目を向けながら、人間社会の諸問題について考えてください。さらに、社会学に関する基礎的な参考書を読むことを勧めます。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：50～55時間）

福祉社会学の基本領域である「個人」「集団」「社会」をキーワードにしなが、授業内容のなかでも関心のあるテーマについては「私」生活をヒントに学習を深めてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	現代社会の理解① 社会システム (第1章第1節)	社会システムとは、社会システムの安定性、社会指標・国民生活指標・新国民生活指標と行政評価、社会階層と社会移動	社会システムの構造分析を行う際に必要とされる概念について押さえましょう。
2	現代社会の理解② 法と社会システム (第1章第2節)	法の疎遠性、法の普遍性、法の不変性、「開かれた法」へ?	現代社会に必要とされる「法」とは何か、考えてみましょう。
3	現代社会の理解③ 経済と社会システム (第1章第3節)	交換と市場、市場における力の不均衡、市場の社会性と市場の外部、労働市場と格差社会、経済の社会的制御	人々および企業の経済行動と社会システムの関係について、用語に意識しながら把握しましょう。
4	現代社会の理解④ 社会変動 (第1章第4節)	社会変動とは何か、近代化、産業社会の発展、グローバリゼーション	社会秩序の変化と、その歴史的進歩・発展の学説に触れましょう。
5	現代社会の理解⑤ 人口からみた社会変動 (第1章第5節)	人口と社会、人口減少の時代へ、人口転換、少子高齢化のメカニズム、高齢化する人口構造、人口の地理的分布における変化、社会変動・福祉国家・社会保障費用	社会変動を生じさせる大きな要素の一つである「人口」のメカニズムについて学び、社会問題の背景の理解や社会の将来像につなげていきましょう。
6	生活の理解① 生活のとらえ方 (第2章第1節)	生活をめぐる現代的状況、生活をめぐる様式と人生の推移、生活時間、家計支出、人間関係、「生活の質」の論理と方法	「生活」とは何か。様々な視点からそれぞれの概念について理解しましょう。
7	生活の理解② 家族 (第2章第2節)	家族という社会事象、家族の機能、現代日本の家族変容、福祉国家と家族	生活としての「家族」について、制度・集団・社会変動・国家などの視点から理解を深めましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	生活の理解③ 地域 (第2章第3節)	地域の概念、コミュニティ、地域社会の集団・組織、都市化と地域社会、農山漁村地域と過疎化、地域のグローバル化とエスニシティ	生活としての「地域」について、様々な定義を理解しましょう。
9	人と社会の関係① 社会的行為 (第3章第1節)	ミクロ・マクロリンク、社会的行為、秩序問題、パーソンズ以降の社会的行為論の展開	人々の行為と社会との関係を意味づける社会的行為論の展開について、理解しましょう。
10	人と社会の関係② 社会的役割 (第3章第2節)	「役割」という言葉、役割研究の系譜、自己と他者—自己の形成、交渉としての相互行為—期待の相補性、役割と地位との関係、役割集合の理論、役割研究からみえること	社会学において基本的な概念である社会的役割の研究について、自我の形成を踏まえながら理解しましょう。
11	人と社会の関係③ 社会集団と組織 (第3章第3節)	集団の概念、集団の種類、近代組織の展開、集団的・組織的現実の多様性	多様な集団と組織の概念について理解を深めながら、社会構造をとらえていきましょう。
12	人と社会の関係④ 社会的ジレンマ (第3章第4節)	個人的合理性と社会的合理性の矛盾、囚人のジレンマ、共有地の悲劇、社会的ジレンマの定義、ジレンマ解消への方策、社会的ジレンマを超えて	社会的ジレンマを理解し、社会的に応用していくということは、社会を理解するうえで重要な意味となっていることを押さえましょう。
13	人と社会の関係⑤ 社会関係資本と社会的連帯 (第3章第5節)	近代化と社会的連帯、社会関係資本の理論、負の社会関係資本と社会的排除	諸個人間のつながりと社会という関係性、それらがもつ資本の活用について理解を深めましょう。
14	社会問題の理解① 社会問題のとらえ方 日本社会と社会問題 (第4章第1・2節)	社会的な産物としての犯罪、社会統制が犯罪と創出する、レッテルを操作する人々、社会学と社会問題、「新しい」貧困とは何か?、生きがたさの形、社会からの撤退、親密圏という社会問題、社会問題と福祉	社会問題を把握し、社会的アプローチから解決するにはどのようにしたらよいか、福祉という視点からも併せて考えることが重要です。
15	社会問題の理解② 共生社会と権利 (第4章第3節)	グローバル化と生活様式の変化、二つの革命と人権意識、人権・生存権・社会権、共生社会の実現に向けて	社会問題を解決するうえで重要な「権利の尊重」を社会の発展と関連づけながら、今後の社会のあり方について考えていきましょう。

■レポート課題

1 単位め	私たちが所属している基礎集団・機能集団について述べ、現代社会の集団に関する特徴を考察しなさい。
2 単位め	現代社会とともに変化してきた「家族形態」と「家族機能の変容」について考察しなさい。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の3・4単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

福祉社会学は、社会現象としての「社会福祉」を全体社会との関連のなかで、社会学的研究方法（社会学的接近）によって体系的に分析しながら、「人間の営み」に関わる社会的行為や生活福祉問題を派生させる諸要因の相互関連を理論的に明らかにすることにあります。とくに、その国の社会と文化によって規定されている社会福祉の構成要素である(1)社会福祉の目的（価値）、(2)社会福祉の対象（要援護者）、(3)社会福祉の主体（援助者）、(4)社会福祉の方法（専門的技術）をふまえながら、学習することが重要です。また、福祉社会学は、人間の社会生活全体に関わることだけに「社会」「文化」「集団」「個人」といったそれぞれのレベルがつねに関連性をもちながら相互作用していることを考えて学習することも大切です。

なお、レポート作成を行う際は、次の基本的な視点をふまえながら、レポートを仕上げてください。

- ・福祉社会学は、客観的・実証的な枠組みに基づいて構成されています。したがって、レポート課題を作成するにあたっては、何を取り上げるかというより、どのように取り上げるかが重要です。その際、「事実・現実はいかにあるか」「いかにあるべきか・いかになすべきか」「それらはどこから」「どこにいかようしているのか」を考察しながらレポートを作成してください。
- ・現代社会において社会福祉がどのような役割と機能をもっているかを家族、地域、職場などの現状を考察しながらレポート課題に取り組んでください。その際、公害、人間疎外など社会生活のひずみ現象を生み出した社会構造を考えることも大切です。
- ・レポートの作成は、単にテキストを読んで理解した内容をそのまま書くのではなく、レポート課題に関連した生活上でのさまざまな問題点を取り上げながらレポートを作成することが重要です。たとえテキストの記述内容とは異なったレポートの内容であったとしても、そのレポートの内容が十分な分析と考察が行われているものならば、評価もそれだけ高くなります。

1 単位め アドバイス

テキストをよく読み、社会福祉の領域のなかで社会学が深い関わりがあることを理解し、その上で「社会的存在」として集団に所属しながら日常生活を営んでいる人間社会について理解しながらレポート課題に取り組んでください。基礎集団の例として、血縁に基づいたものに家族、氏族、部族、民族などが考えられ、地縁を契機として成り立つものに村落、都市などが考えられます。基礎集団といわれるものは、人間生活の基礎的な母体になっているからに他なりません。それは結合の性格からみれば、心のよりどころともなるパーソナルな感情的融合性を有しながら、運命的または半運命的な共同生活をしています。基礎集団と対比して考えられる機能集団は、合理的な組織性を有しており、特定の目的のために利害をともなった、いわば人為的・目的的、計画的に作られた集団です。例えば、会社・組合・政党・国家などが機能集団といわれています。こうした集団が時代の変化とともに日常生活を送る現代社会においても変化してきました。歴史的にどのように変化してきたのかを代表的な社会学者であるクーリーやテンニースなどの人物の理論も取り入れながら考察して、簡潔に述べてください。

2 単位め アドバイス

テキストをよく読んで「家族」について考えてください。とくに、自分自身の家族をふまえながら「家族とは何か」を考えてください。「家族」に関する厳密な用語の規定をすることはきわめて難しいですが、ここでは一応、次のように解しておきましょう。家族

とは、夫婦関係を基礎として、親子、兄弟などの近親者がその主要な構成員で、相互に愛情やわれわれ感情によって強く結ばれ、共同の生活を営んでいる第一次的福祉追求の集団です。また、これらの家族としての集団的本質は等質であっても、その構成、形態、機能などは決して一様ではありません。さらに、親子関係も単なる血縁関係のみの関係ではなく、親子としての社会的承認に基づいた関係でもあります。

日本の家族はその時代、地域によって独自の性格をみせていますが、日本の家族を語るとき、その基本的性格の典型としてとらえられるものが近代まで支配してきたイエ制度です。家長のもとに家系、家名、家産の継承、すなわち、家業や家督を受け継ぎ、祖先を祭り、家族が世代をこえて存続繁栄することを重視する制度です。しかし、最近の日本の家族に対する意識も変化し、時代の変遷とともに「家族の形態」や「家族の機能」の変容、さらには家族意識の変化がみられます。

本課題は、こうした視点をふまえながら、「家族とは何か」、「制度としての家族」、「集団としての家族」、「家族の機能」といった特徴を自分で理解しながら、自分で考察し現代日本の家族について簡潔に述べてください。

3・4単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

1. 出題問題をきちんと理解しているか。
2. 現代社会に生起する社会問題の背景がきちんと整理されているか。
3. 重要な社会学用語や概念を用いながら適切に答えているか。
4. 論述の分量も評価対象となる（文脈も大切にしてください）。